

加藤雅人先生のご退職に寄せて

学部長・研究科長
今 井 裕 之

加藤雅人先生は、1994 年に関西大学総合情報学部にご着任、その後 2009 年に外国語学部へ学内移籍され、その間、どちらの学部でも執行部の一員として新設時の学部運営にご尽力されました。とくに外国語学部においては、副学部長（学務委員長）として、さらにはキャリア委員長（全学キャリアセンター主事）として、外国語学部の礎を築き、その発展に寄与されました。研究面では、哲学者として、意味論、（メタ）存在論を中心に、国内屈指の出版社から多くのご著書を出版されています。教育面では、学部では「言語分析論」「多文化共生論」のほか、長年「基礎演習」のコーディネーターをお務めいただき、学生たちの大学での学びの基盤づくりにご尽力され、また大学院では「外国語分析論」「言語哲学特殊研究」をご担当されました。さらに京都大学や大阪大学の大学院でも、西洋哲学のご講義を長年お続けになるなど、教育・研究の場は本学に留まりません。研究、教育、学部運営全ての面で多大なご尽力を賜りました。そして本年 2025 年 3 月 31 日をもってご退職されます。加藤先生のご退職の日を迎えることに強い寂寥の念を禁じ得ません。

加藤先生と初めてお会いしたのは、私が関西大学に赴任する直前、2023 年 3 月の外国語科目担任者連絡会でした。当時まだ非常勤の先生がたも一緒に懇親会が開かれていた「よき時代」でしたが、社交の場が苦手な私は、所在なくいつ帰ろうかと思っていたところ、お声掛けくださったのが加藤先生（と李先生）でした。その時の安堵感が「刷り込み」となり、その効果は現在もまだ続いています。そんな偶然は私だけだと思っていたのですが、実はこの学部にご赴任された新任教員の多くが同じ経験をしていることを最近知りました。研究室が近くだった、関大での授業の仕方に戸惑っていた時に相談に乗ってもらったなど、理由は様々ですが、同僚のみなさんが異口同音に加藤先生とのエピソードを語られています。また、学生のキャリア指導の面でも、委員長としてのリーダーシップだけでなく、毎年希望者が殺到する加藤ゼミでも親身に指導をしてくださるおかげで、多くの学生が、本人の希望する（あるいはそれ以上の）進路を見出し、社会に羽ばたいています。加藤先生は、学生も教職員も関係なく、多くの迷える私たちを見守ってくださる大きな存在でした。

最終講義の際には、卒業生たちも含む学生たち、ご退職者も含む外国語学部教員たちはもとより、総合情報学部時代の教員や事務職員の方々、さらには加藤先生のご家族の皆さんもご出席くださり、実に多様多数の参加者を迎える会になりました。誰に向けた話をすれば良いのか

迷うとおっしゃりながらも、おそらくいつもと同じように、誰をも引き込む面白おかしい大学院でのエピソードも交えながら先生の研究史を語ってくださり、後半は、言語、意味、存在などの哲学的問いについて、日英語の違いなど我々が理解可能な事例を用いて気遣いつつ、聴衆を深い思索へと誘い導いてくださいました。加藤先生のお言葉を借りれば、研究と教育の「分離」と「一致」を生きた大学人としての先生のお姿に、「あいだ」の意義を感じることができたように思います。